

家族のサポートシステム

NEWS LETTER Vol. 2

2002年2月

「家族のサポートシステム」は、薬物依存症の子どもを持ち、共に回復したいと願う家族によって構成されております。同じように悩み苦しんでいる仲間や依存症者である子ども達のためのサポート体制作りを目的としている会です。

今日薬物依存の問題はますます深刻化しているにもかかわらず、依存症者とその家族に対する周囲の理解は決して十分とは言えません。きわめて限定したサポートしか得られないという厳しい現実があります。このような状況の中で、「私達（薬物依存症の子どもを持つ家族）だからこそできること」を念頭に、新しいサポート体制づくりを目指した当事者運動が「家族のサポートシステム」です。

まだまだ歩き始めたばかりで人数も少なく、もっと多くの方々にご参加いただければと思っております。この会の主旨に賛同されたご家族の方は、ぜひ「家族のサポートシステム」の活動にご参加ください。

家族のサポートシステム

第1グループ：家族のための拠点づくり

家族がお茶を飲んでくつろいだり、互いに話を聞いたり、ミーティングを開いたりできる場所づくり

第2グループ：電話相談活動

同じ悩みを持つ家族を対象とした電話相談活動

第3グループ：広報活動

- 行政・マスコミ・医療機関などへの働きかけ
- ニュースレターの発行

各グループの活動状況

「家族のための拠点作り」ー第1グループー

- ・ 1月18日（金） 仲間の知人〈焼肉店経営 各界の人脈を通じていろいろな事業の手助けをされている方〉を訪問しました。
多くの貴重な意見が、今後の私たちにとっても参考になりました。



・ 今後の構想

- ☆ 当面、セルフ・サポート研究所の2階でやれる範囲でやりたい。
- ☆ 喫茶コーナーとして、コーヒー、抹茶、紅茶など安値で提供。
- ☆ 年2回やっていたフリーマーケットを、常時コーナーに設置。
- ☆ カルチャースクール的なものを併設（お習字、編み物その他）。

これらの3点をつめていきたいと思っています。なお、これらについていろいろなご意見、ご希望など参考にしたいと思います。後ほどアンケートにご協力お願いします。

お知らせ

「家族サポートシステム」としての家族会も少しずつ歩き始めました。

この会を運営していくうえで、どなたでも、いつでも協力しやすい体制づくりを考えられています。

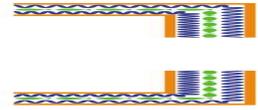
この会の設置要綱を設けるなど、この会が自立していくためにも諸々の問題点があると思います。

当面、必要な役割分担を具体化させるための準備会を発足させたいという積極的な意見が出されました。

次回の全大会（三月十九日）において、活動しやすい方向に向けて活発なご意見をお願いします。



今後のスケジュール



3月4日(月)〔14:00~16:00〕「電話相談のためのトレーニング」

主な内容：・問題解決のための具体的な手段を提示しない。

- ・同じような悩みを持つ家族のお話を共感を持って聞いたり、同じ仲間がいることを伝え励ましたりする。
- ・地域の相談窓口や専門機関を紹介したりする。

*初心者ばかりですので、多くの方の参加を期待しています。



3月19日(火)〔16:30~17:45〕「家族のサポートシステム全体会」

月に一度の全体会です。全体会では主に各グループの活動状況を報告しあったり、各グループで持ち上がった議題について皆さんで意見を出し合ったりしています。全体の流れがわかりますので、少しでもこの活動に関心を持たれた方は、一度足を運んでみて下さい。

★★★ コラム・リレー
★★★

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆
(毎月いろんな方からの一言を掲載)

傍聴して・・・

2月6日、仲間の家族数人と共に東京地方裁判所の公判を傍聴してきました。

1階で当日の公判スケジュール表を見ると、薬物関連の公判がどのページにも数件あり、やはり多いなーと実感しました。

1件目の傍聴席に着いたときには、数年前の息子の時の光景が一瞬胸をよぎって緊張感を覚えました、すぐに冷静になりました。

午前中の3件を傍聴しましたが、その限りにおいては裁判官、検事、弁護人ともども薬物問題に関して、どの程度理解されておられるのだろうか？という印象でした。

リハビリに関しては全く問題にされていませんでした。

このように淡々とセレモニーのごとく審理が行われ、人が人を裁くという状況を見て疑問に思ったのは私だけではなかったようです。



薬物依存症者の家族であるからこそ発信できる、発信すべきことがあることを改めて考えてみた一日でした。(N)